



■会場 大阪市中央体育館(大阪市) 試合開始: 14:00 試合時間 1:50  
 観客数 2,800 主審: 田中 昭彦 副審: 高橋 弘二



東レアローズ

■監督: 小林 敦  
 ■コーチ: 篠田 歩

■第1セット出場メンバー

18 鈴木	12 ポヨビツ	15 李
1 富松	9 梅野	10 星野

( )内は交代選手  
 ■リベロ: 6 渡辺 俊介

得点	セット時間	得点
25	1set(22')	17
22	2set(27')	25
15	3set(23')	25
20	4set(29')	25

82	<b>Total</b>	92
1	セット数	3



サントリーサンバーズ

■監督: ジルソ ベルナルド  
 ■コーチ: 栗原 圭介

■第1セット出場メンバー

19 栗山	7 エバンド	2 鈴木
		20 (米山)
1 山村	6 岡本	8 金子
	13 (柳田)	

( )内は交代選手  
 ■リベロ: 11 鶴田 大樹

■Match Comment

予選同組の対戦となったサントリーサンバーズと東レアローズとの対戦。グループ戦では東レが勝利したが、決勝戦ではサントリーが多彩な攻撃で勝利した。

第1セット、東レは星野のスパイク、鈴木、ポヨビツのバックアタックで先取する。続く第2セット、サントリーはエバンドのバックアタック、東レは富松の速攻や鈴木の高さのある攻撃で一進一退の展開となるが、サントリーの攻撃が上回りセットを取り返す。

第3セット、サントリーは鈴木や山村のブロックが冴え、鈴木、サービスエースを含めての5連続得点をあげる。山村は、ブロックやダイレクトスパイクを決める大活躍。ピンチサーバーで入った柳田もサービスエースを決め連取する。

第4セットは17対17まで両者譲らずの展開となるが、サントリーは、栗山やエバンドのスパイクで連続6得点し流れを大きく変え、柳田もピンチサーバーとしての役割を果たし得点を得ると、最後は鈴木、岡本の強烈なアタックでゲームセットとなり、2年振り7回目の優勝を飾った。

第61回以来となる大阪同士の男女アベック優勝となる。

■Coach Comment: 小林 敦 (東レアローズ)

1セット目は勢いよく奪取することが出来たが、2セット目以降はサントリーのサーブ力と攻撃力に圧倒され、リズムをつかむ事が出来なかった。但し、リーグ戦を7位で終えて2か月後に準優勝という結果を出す事が出来た事には胸を張りたい。

今シーズンも長きにわたり、応援していただき誠にありがとうございました。

来シーズンこそ優勝をつかみ取る事が出来るよう頑張ってます。

■Coach Comment: ジルソ ベルナルド (サントリーサンバーズ)

監督として最初の1年だったがこれからは新しい「ストーリー」に向けて頑張っていく。東レは今シーズンの中で見事な成長を見せて、非常に強い相手だった。ハードルの高い試合だったが、選手は最後まであきらめず、自分のベストを尽くしてくれた。

これからもチーム一丸となってこのタイトルを大切に、常にサントリーらしく戦っていきたい。

東レのポヨビツ選手の、今後の活躍を応援している。

■作成者: 村田 光直

※ 本票の著作権は公益財団法人日本バレーボール協会に帰属します。